

ご協力いただいた乾癬の患者さんへ

研究報告 2024-2025

NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会



イワツバメの子ども photo by Shinichi

これまで 2,961 名の方にご協力いただきました

乾癬の患者さんを対象とした大規模調査(レジストリ調査)は 6 年目となり、2024 年 12 月までに延べ 2,961 名の方に参加していただきました。皆さんのご協力に深く感謝し、今年も研究報告書を作成しました。皆さんの乾癬治療のお役に立つことができましたら幸いです。

年 1 回の継続調査(アンケート)にご協力お願いします

本研究では年 1 回、継続調査(アンケート)を実施しています。現在の病状についてお聞かせください。

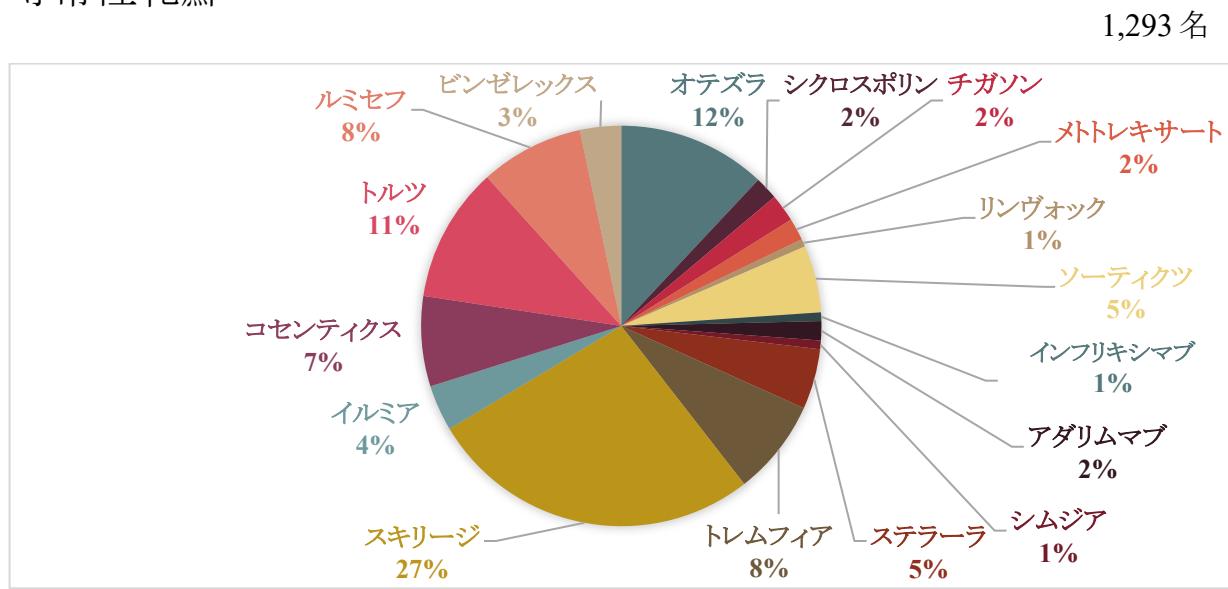
乾癬の病型(タイプ)など

全体 2,961 名(男性 2,055 名、女性 906 名)で、現在の年齢の中央値は 61 歳、乾癬発症年齢の中央値は 40 歳でした。病型は尋常性乾癬(皮膚の発疹のみ)が 69%、乾癬性関節炎(関節炎を合併)が 24.8%、膿疱性乾癬が 6.1% でした。関節炎の病型では、主に手足の関節が腫れる末梢関節炎が 79%、付着部炎(アキレス腱などの腱が骨に付着する部分の炎症)が 42%(既往も含む)、手足の指がソーセージのように腫れる指炎が 52%(既往含む)、安静時の腰痛や首の動きが制限される等の脊椎の炎症が 16% でした。併存症では、高血圧や高脂血症、糖尿病などのメタボリック症候群が多く、BMI30 以上の高度肥満の方は男性で 11.5%、女性で 12.7% に見られました。喫煙している方は男性で 40.5%、女性で 16.6% でした。肥満、喫煙率ともに日本人平均より高い数値となっています。乾癬の治療とともに禁煙と節酒、適度の運動とバランスの良い食事を心がけていただければと思います。

病型別の薬剤使用状況

2024 年の年末時点で全身治療薬(内服・生物学的製剤)を使用していた方は 1,940 名(全体の 66%)で、内服薬が 437 名(23%)、注射薬が 1,503 名(77%) でした。各病型別に現在よく使われている薬剤やトピックをご紹介します。

尋常性乾癬

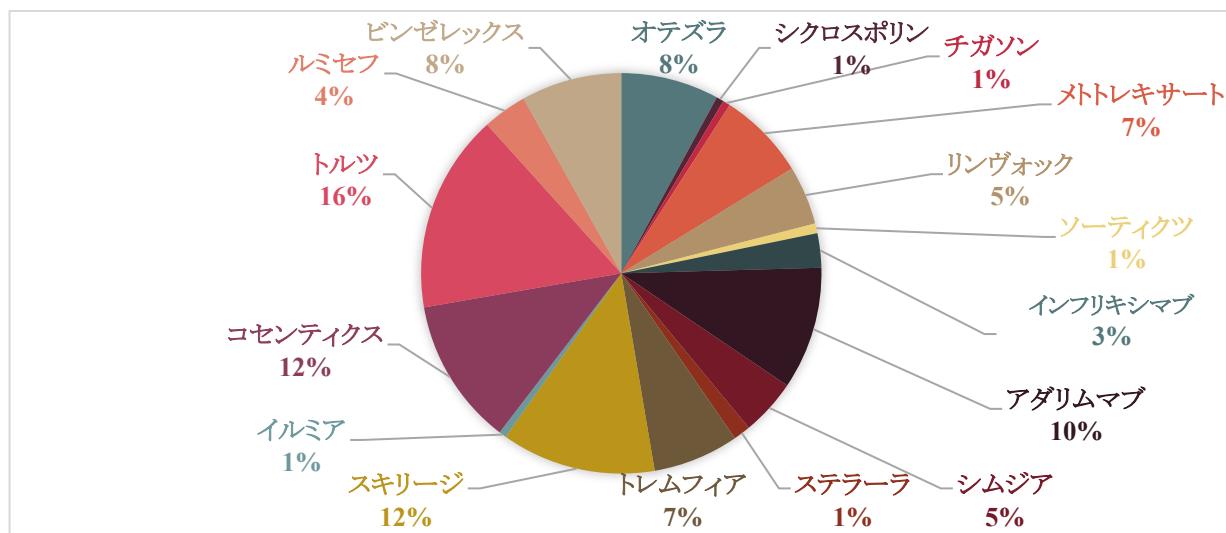


経口剤のオテズラ(PDE4 阻害薬)、ゾーティクツ(Tyk2阻害薬)、生物学的製剤の IL-23 阻害薬のスキリージ、トレムフィア、IL-17 阻害薬のトルツ、ルミセフがよく使用されていました。

現在、IL-23 阻害薬の経口剤が開発中であり、将来新たな治療選択肢になるかもしれません(現時点ですべての国においても未承認)。

乾癬性関節炎

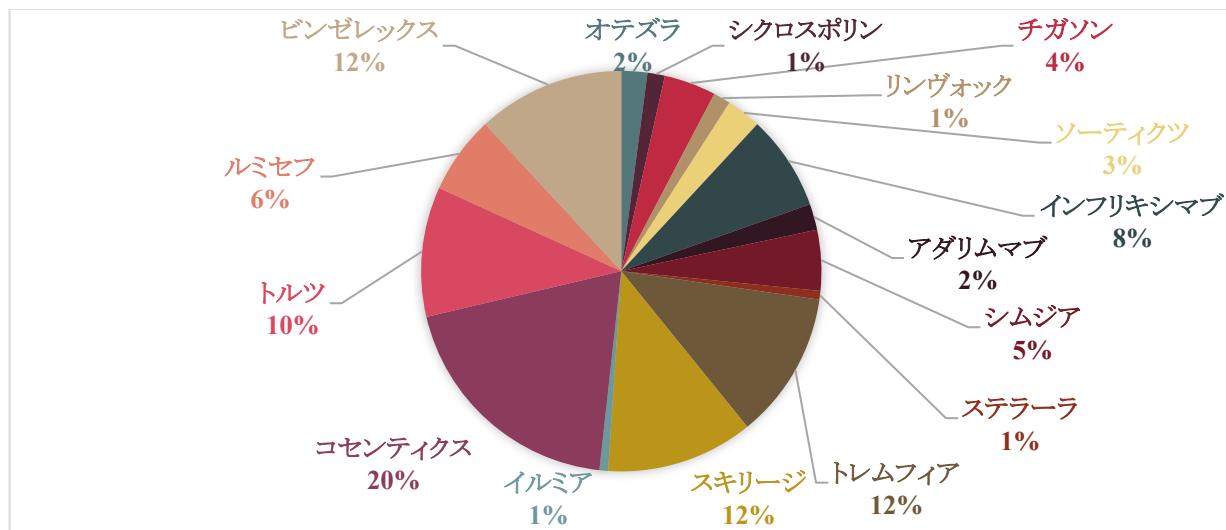
504名



経口剤のメトレキサート、オテズラ、生物学的製剤のヒュミラ(TNF α 阻害薬)、スクリージ、トリツ、コセンティクス(IL-17阻害薬)がよく使用されていました。2023年12月からビンゼレックス(IL-17阻害薬)が乾癬性関節炎に使えるようになりました。

膿疱性乾癬

143名



生物学的製剤のインフリキシマブ(TNF α 阻害薬)、トレムフィア、スクリージ、コセンティクス、トリツ、ビンゼレックスがよく使用されていました。

2022年11月に膿疱性乾癬の急性症状に対する生物学的製剤スペピゴ(IL-36阻害薬)が発売されました。急性期に1回もしくは2回使用するため上のグラフに記載はありませんが、2024年には7名の患者さんに使用され、5名で治療効果が出ていました。

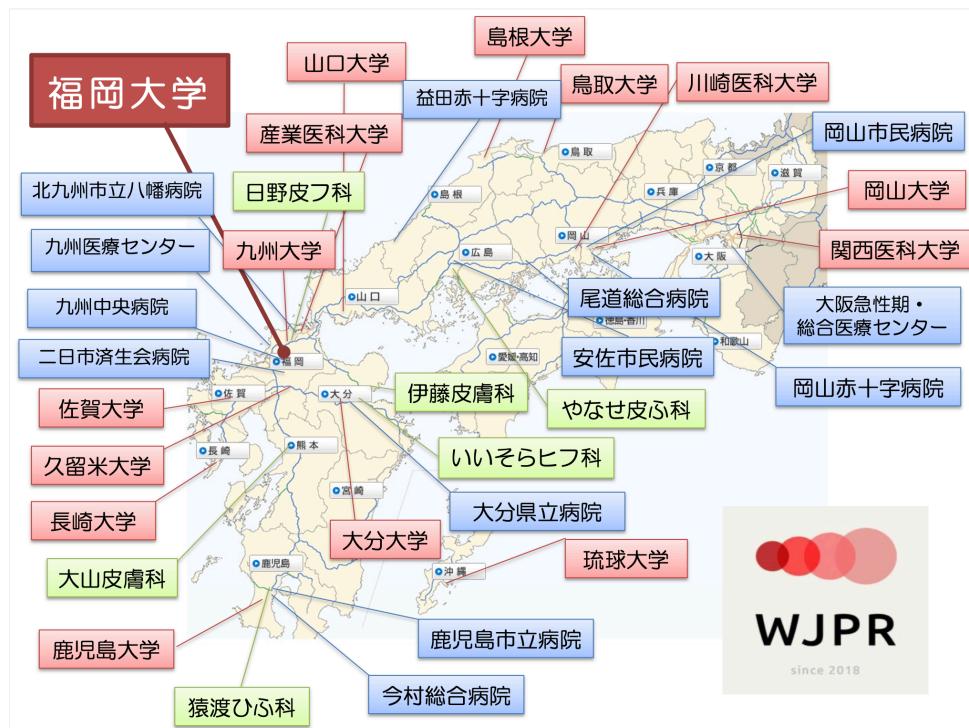
ミニコラム: 乾癬には男女差がある!?



登録男女数の違いでお気づきになった方もいると思いますが、
日本において乾癬は男性に多くみられます。尋常性乾癬は男女

の比がおよそ 2:1、乾癬性関節炎は 1.5~2:1、膿疱性乾癬は 1:1 です。乾癬の発症時期は
男性が 30 代、女性は 20 代と 50 代に多くみられます。女性では閉経後にメタボリック症候群
が増え 50 代以降に発症する人が多いと考えられています。男性患者さんでは治療開始時の
皮疹の重症度が高く、女性患者さんでは有害事象の発生率が高いことが知られています。
レジストリでも男女差は研究テーマとしており、皆さんからいただいたアンケート調査の結果、
女性では医師が思っているよりも皮膚の症状を重くみている傾向があることがわかりました。
これからも乾癬治療に役立つ情報を発表していきたいと思います。引き続きご協力をよろしく
お願ひいたします。

【研究協力機関 (2025 年 9 月時点)】



研究会 HP (<https://npo-wjpr.com>) には理事長挨拶や事業案内、業績、研究報告書バックナンバー
を掲載しています。上記の QR コードからぜひアクセスしてください。

研究会の活動は日本乾癬学会や複数の製薬会社からの寄付によって運営されています。病型別に使用者が多い薬剤を紹介していますが、特定の薬剤の使用を促すものではありません。また、一部適応外の薬剤が含まれるため、使用にあたっては担当医と相談し添付文書の確認をお願いします。

作成者: 研究会理事 鶴田 紀子(福岡大学病院)

発行日: 2025 年 9 月 30 日